

第 13 回 診断病理サマーフェスト－病理と臨床の対話

テーマ：婦人科腫瘍の病理と臨床

開催日:2019年8月31日・9月1日

会場:東京慈恵会医科大学二号館講堂(定員240名)

対象:婦人科病理学に興味のある病理医、産婦人科医、放射線科医、細胞検査士

参加費:20,000円(初期・後期研修医、大学院生、細胞検査士:15,000円)

主催:一般社団法人日本病理学会

世話人:三上芳喜(熊本大学医学部附属病院病理診断科)

企画の趣旨

婦人科病理学は日常的に遭遇する疾患の種類が多岐にわたる一方で、稀少腫瘍が比較的多く、一般病理学とは異なる独特の概念・用語が用いられるなどの理由から、これを苦手と感ずる病理医が少なくない。また、病理診断が妊孕能温存の可否を判断する上で重要な情報となるという意味において、病理医と婦人科医、放射線科医による情報共有や討議が患者管理において必要不可欠である。

2007年に開催された第1回の診断病理サマーフェストでは婦人科病理をテーマとして取り上げたが、その後蓄積された数多くの知見を反映してWHO分類が改訂されて第3版から第4版となり、さらにこれに準拠した卵巣腫瘍・卵管癌・腹膜癌取扱い規約病理編第1版が2016年7月、子宮体癌および子宮頸癌取扱い規約病理編第4版が2017年7月に同時に出版されるなどして、様々な用語や概念、分類の変更がなされた。また、近年は分子遺伝学的解析に基づいた分子分類が子宮体癌、卵巣癌などで提唱されており、がんゲノム医療が発展・普及する中で、近い将来において婦人科腫瘍学のパラダイムが大きく変わっていくことが予想される。こうした状況に鑑み、2019年のサマーフェストのテーマとして再び婦人科病理学を取り上げることは時宜を得ていると考えた次第である。

講師としては、(1)本邦の婦人科病理学を牽引し、指導的立場にある病理専門医(病理学会員)、(2)婦人科腫瘍学の基礎と臨床の両方に精通し、様々な臨床試験や診療ガイドラインの作成にも関わっている婦人科医、(3)骨盤画像に精通し、かつ婦人科病理学にも造詣が深い放射線科医、を選抜した。いずれの講師候補も明快でわかりやすく、かつ日常診療に資する内容を教授する講演で定評があることを申し添えておく。

【講師候補】

* 全ての講師予定者より内諾済み。

病理 清川貴子(東京慈恵会医科大学病理学講座教授)

- 笹島ゆう子（帝京大学医学部附属病院教授）
南口早智子（京都大学医学部附属病院准教授）
三上芳喜（熊本大学医学部附属病院病理診断科）
安田政実（埼玉医科大学国際医療センター病理診断科教授）
柳井広之（岡山大学病院病理診断科教授）
- 婦人科 新倉 仁（国立病院機構仙台医療センター産婦人科部長）
馬場 長（岩手医科大学医学部産婦人科学講座教授）
宮城悦子（横浜市立大学医学部がん総合医科学教授）
- 放射線科 小山 貴（倉敷中央病院放射線科主任部長）
田中優美子（がん研有明病院画像診断部婦人科領域担当部長）

【プログラム案・講演内容】

第一部 卵巣腫瘍の病理

- ① 卵巣腫瘍-上皮性腫瘍の診断のポイント（笹島ゆう子）
 - 組織発生と形態観察に基づく卵巣上皮性腫瘍の分類の枠組み。
 - 代表的な腫瘍の臨床病理学的特徴と診断のポイント。
 - 病理学的進行期、インプラントの概念、グレード評価の仕方
 - 漿液性癌と漿液性卵管上皮内癌（STIC）
- ② 卵巣腫瘍-上皮性腫瘍を除く common な腫瘍（清川貴子）
 - 性索間質腫瘍（顆粒膜細胞腫、線維腫・莢膜細胞腫など）
 - 胚細胞腫瘍（奇形腫、卵黄嚢腫瘍、絨毛癌、胎芽性癌、絨毛癌など）
 - その他
- ③ 卵巣腫瘍のマクロと画像（田中優美子）
 - 代表的な卵巣腫瘍の画像所見
 - 画像による腫瘍の広がり診断（進行期評価）
- ④ 婦人科医から病理医に求めること－最適な治療のために（新倉 仁）
 - 病理診断に基づく治療方針決定のためのアルゴリズム（特に妊孕能温存の適否について）
 - 婦人科医が求める病理診断報告書のあり方
- ⑤ 卵巣腫瘍の術中迅速診断－婦人科医をミスリードしないために（柳井広之）
 - 術中迅速診断の適用と限界・注意点
 - 症例供覧（自験例など）によるディスカッション

第二部 子宮体部腫瘍の病理

- ① 内膜癌-診断のポイント（柳井広之）

- 子宮体癌の組織分類と各組織型の臨床病理学的特徴
 - TCGA スタディーによる子宮体癌の分子分類
 - Lynch 症候群と子宮体癌（スクリーニングのストラテジーなど）
 - 子宮内膜異型増殖症/類内膜上皮内腫瘍（EIN）の概念と診断のポイント
 - 腫瘍類似腺病変
- ② 間葉系腫瘍-診断のポイント（安田政実）
- 平滑筋腫瘍
 - 内膜間質腫瘍
 - その他の間葉系腫瘍
- ③ 子宮体部腫瘍の画像診断（田中優美子）
- 子宮体部腫瘍の画像所見
 - 平滑筋腫と平滑筋肉腫の鑑別ポイント
- ④ 子宮体部腫瘍の診断と治療（馬場 長）

第三部 子宮頸部腫瘍の病理

- ① 子宮頸部腫瘍の病理-診断のポイント（三上芳喜）
- ヒトパピローマウイルス（HPV）の生物学
 - 子宮頸部扁平上皮癌および上皮内病変
 - 子宮頸部腺癌および上皮内腺癌と腫瘍類似腺病変
 - その他の頸部腫瘍
- ② 子宮頸部細胞診-ベセスダシステム 2014 を理解する（南口早智子）
- 改訂ベセスダ分類（第3版）の概要
 - AGC の取扱い
 - HPV を標的とした補助的診断法の意義と限界
- ③ 子宮頸部腫瘍の画像診断（小山 貴）
- 子宮頸部腫瘍の画像所見
 - 腫瘍類似腺病変-LEGH を中心に
 - 広がり診断（進行期評価）
- ④ 子宮頸癌の診断と治療（宮城悦子）
- 子宮頸癌の治療（保存的治療と手術、放射線・化学療法の現状）
 - 早期（微小）浸潤癌の取扱い
 - 子宮頸癌検診の動向と病理医・細胞検査士に求めるもの